



赤緒の身体はもう限界だった。
これまで何度も犯され、その身体を弄ばれても抗い、堪えてきた。
だがハマドに責められる度に赤緒の強靱な心は少しずつ打ち崩されていった。
今の赤緒は辛うじて快楽に抗っている状態。身体は熱くほてり、昂っている。
あと僅かでも誘惑があれば容易く崩れてしまいそうなほど赤緒の心は弱り切っているが、それでも力を振り絞り何とか耐えようとしていた。

おやおや、またずいぶんと
息が荒れてますねえ
それに辛そうだ…

あなたをずっと見てきましたが
昂っているのはもう分かってますよ

これまでのあなたの声、態度…
そして今のあなたの姿

ふふふッ
もう限界という感じだ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



あなたが懇願すれば
楽になりますよ？

あなたがあなた自身の
意思で、そして心から望む
のなら、私が解放して
あげましょう

もう誰も助けになど
来ないのです

さっさと諦めて
私に服従を誓うのです

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ



さあ言いなさい
服従の言葉を…ッ

全てを棄てて、
私に服従するとッ

あなたに残された道は
もうそれしかないのですから

さあッ！
言いなさいッ！



服従：
：：します





それから赤緒は何の躊躇いもなく
ハマドに跨った。
腰を激しく動かし、熱く喘ぐ。
これまで耐えてきた昂りが一気に
解放される。
もう赤緒の中には何もなかった。
ただ目の前の快楽に溺れ、貪りた
かった。
薄暗い部屋に赤緒のいやらしい
嬌声が響く。



はあ

はあ

あ、ああッ!

あん...ッ、はあ...ッ!

あ...

んあ、ああ...ッ!

はあ、あん...

あ、あああッ!!

はあ

ン
ン

ン
ン

ン
ン



ああッ、はあん…ッ！

あんッ！

んんッ、ああッ！

はあ

あ、

はあ

あ、

ああ…ッ！

ハマド…様あッ！

ハマド様ああッ！！

ト

グ

グ

グ

グ

グ

グ

グ

グ

あんツああ…ツ!!

ひあツ、はあ、

あ、んあ…ツ!

あん

はあ

あ

ああああツ!

ああ、んんあ…ツ!

はあ

んくあ、あんツ!!

あ

ギルンッ

ギルンッ

ン
ン
ン

ン
ン

ン
ン





んおッ
んおッ
んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ

んおッ



ん、あッ、ああ……